

安全データシート

P1

作成日: 2026年 4月22日

1. 製品及び会社情報

製品名 : **GESボンド N300+**
会社名 : 中央樹脂ケミカル株式会社
住所 : 〒111-0054 東京都台東区鳥越1-29-6
担当部門 : 品質保証部門
電話番号 : 03-3851-2324 FAX番号: 03-3851-2326
緊急連絡先電話番号 : 03-3851-2324
メールアドレス : cr2009chemi@yahoo.co.jp
推奨用途及び使用上の制限: 一般工業用途/接着剤

2. 危険有害性の要約

最重要危険有害性及び影響 : 引火性
化学品の GHS分類
物理化学的危険性
引火性液体 : 区分2
その他 : 区分に該当しない
健康に対する有害性
急性毒性 吸入(蒸気) : 区分4
皮膚腐食性/皮膚刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A,2B
特定標的臓器毒性 (単回暴露) : 区分2 (腎臓)
(気道刺激性、麻酔作用)
特定標的臓器毒性 (反復暴露) : 区分1 (神経系)
誤えん有害性 : 区分2

※上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない又は分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語
危険有害情報

危険

H225 引火性の高い液体及び蒸気
H332 吸入すると有害(蒸気)
H315 皮膚刺激
H319 強い眼刺激
H335 呼吸器の刺激の恐れ
H305 飲み込んで気道に侵入すると有害の恐れ
H372 長年にわたる、または反復暴露により臓器(神経系)の障害
H371 臓器(腎臓)の障害の恐れ

注意書き

(安全対策)

- P202 全ての安全注意を読み理解するまでは都営扱わないこと。
 P210 熱、高温のもの、火花、裸火、及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
 P233 容器を密閉しておくこと。
 P240 容器を設地しアースを取ること。
 P241 防爆型の電気器具、換気装置、照明機器を使用すること。
 P242 火花を発生させない工具を使用すること。
 P243 静電気放電に対する措置を講ずること。
 P260 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーの吸入しないこと。
 P264 取扱後は手を良く洗うこと。
 P270 この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
 P271 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 P280 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

(救急措置)

- 火災の場合 :
 P370+P378 消火するために適合した消火器を使用すること。
 飲み込んだ場合:
 P301+P310 直ちに医師に連絡すること。
 眼に入った場合:
 P305,351,338 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを使用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 皮膚(又は髪)に付着した場合:
 P303,361,353 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
 吸入した場合:
 P304+P340 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 P312 気分が悪いときは、医師の診断/手当を受けること。
 P331 無理に吐かせないこと
 P337+P313 眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受けること。
 P308 暴露または暴露の懸念がある場合、医師に連絡すること。
 P391 漏出物を回収すること。

(保管)

- P403+P235 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
 P233 容器を密閉しておくこと。
 P405 施錠して保管すること。

(廃棄)

- P501 内容物、容器を地方、国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一化学物質・混合物の区別

: 混合物

組成及び成分情報 化学名又は一般名	CAS No.	化審法番号	安衛法	含有量(Wt%)
メチルエチルケトン	78-93-3	2-542	公表化学物質	65~70
酢酸エチル	141-78-6	2-726	公表化学物質	5~10
ウレタン樹脂	非公開	7-858	—	19~21
合計(%)				100

4. 応急措置
- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、気分がすぐれない場合は医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口の中をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
直ちに医師の診断手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズは固着していない限り取り除いて洗浄する。
直ちに医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに汚染した着衣はすべて脱ぐこと。
皮膚を多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激生じた場合や気分が悪いときは、医師の診断手当てを受けること。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状:
吸入すると、咳、咽頭痛、めまい、頭痛。皮膚に接触すると、皮膚の乾燥、発赤。眼に接触すると、発赤、痛み。飲み込むと、灼熱感、腹痛、咳、咽頭痛、めまい、頭痛、吐き気。
医師に対する特別な注意事項 : 状況に応じSDSを提示する。

5. 火災時の措置
- 適切な消火剤 : 炭酸ガス、泡消火器、粉末消火器、耐アルコール性泡消火器。
使ってはならない消火剤: 棒状注水(火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の注水を避ける)
特有の消火方法: 延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
火災時の特有の危険有害性: 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
消火を行う者の保護 適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する耐熱性保護服を着用する。

6. 漏出時の措置
- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
- ・関係者以外の立ち入りを禁止する。
 - ・作業の際は、適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を使用する。
- 環境に対する注意事項
- ・付近の着火源、高温体及び可燃物を速やかに取り除く。
 - ・河川等の公共水路に流出した場合には、直ちに地方自治体の公害担当者に報告する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材
- ・漏出物は乾燥砂、土等の不燃性の物に吸収させ、密閉可能な容器に回収し、安全な場所に移す。
 - ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置をする。
- 二次災害の防止策: 全ての発火源を速やかに取り除く。排水溝、下水溝、地下室など閉鎖場所への流入を防ぐ。
蒸気発生が多い場合は、噴霧注水により蒸気発生を抑制する。

7. 取扱い及び保管上の注意
- 取扱い 技術的対策 : 電気設備及び工具は防爆型の物を使用し、静電気放電に対する予防措置を講ずること。周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。禁煙。
保護具を着用する。静電気対策のために、装置、機器などの接地を確実にを行う。
- 局所排気・全体排気 : 局所排気、全体排気を行う。液の漏洩や蒸気の発散を極力防止する。
- 安全取扱注意事項 : 作業中は帯電防止の作業服、靴を着用する。
- 接触回避 : 高温物、スパーク、火気を避け、酸化性物質、有機過酸化物質との接触を避ける。
- 衛生対策 : 取扱後は良く手を洗うこと。
- 保管 技術的対策 : 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料で葺き、かつ天井を設けないこと。
- 混触禁止物質 : 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 容器包装材料 : 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8.ばく露防止及び保護措置

含有成分の有害性及び暴露濃度基準

ばく露防止

成分名	管理濃度ppm	許容濃度ppm	ACGIH(TLV)ppm
メチルエチルケトン	200	200	200
酢酸エチル	200	200	400
		(2021年度版)	(2019年度版)

保護措置 設備対策

防爆の電気、換気、照明機器を使用すること。静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 取扱う作業場の近くに、手洗い・洗眼器と安全シャワーを必要に応じて設置する。
 屋内作業場で使用の場合は、発生源の密閉化又は換気装置を設置する。
 「火気厳禁」「関係者以外立入禁止」等の必要な標識を見やすい場所に掲示すること。
 安全管理のため状況に応じて、ガス検知器等を設置する。

保護具

呼吸用保護具 : 必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
 手の保護具 : 手に接触する恐れがある場合、耐溶剤性保護手袋を着用する。
 眼の保護具 : 眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具

: 必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

9.物理的及び化学的性質

混合物

物理的状態、色	: 無色透明液体
臭い(閾値)	: 特有の臭気(データ無し)
沸点又は初留点及び沸騰範囲	: 79°C
可燃性	: 引火性の高い液体及び蒸気
爆発限界及び爆発上限界/可燃限界	: (下限)1.7vol% (上限)11.4vol%
引火点	: -7°C
自然発火点	: 427°C
分解温度	: データ無し
PH	: データ無し
動粘性率	: 0.497(m ² /s)
蒸気圧	: 10KPa(20°C)
密度及び/又は相対密度	: 0.85(20/4°C)
相対ガス密度	: 2.5(空気=1)
粒子特性	: 情報なし

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	: 通常の取り扱い条件下では安定である。 流動、攪拌等により、静電気が発生することがある。
危険有害反応可能性	: 通常 of 取り扱い条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	: 加熱、直射日光。
混触危険物質	: 特に情報は得られていない。
有害な分解生成物	: 燃焼などにより、CO,CO ₂ 等

11. 有害性情報

製品の有害性情報: 情報なし

成分の有害性情報:		メチルエチルケトン	酢酸エチル
急性毒性(経口)	ラットLD ₅₀	区分に該当しない	区分に該当しない
急性毒性(経皮)		区分に該当しない	区分に該当しない
急性毒性(吸入)	蒸気 区分4	吸入すると有害	区分4
皮膚腐食性/皮膚刺激性	区分2	皮膚刺激	区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2A	強い眼刺激	区分2B
呼吸器感受性又は皮膚感受性		情報なし	区分に該当しない
生殖毒性		分類できない	分類できない
発がん性		分類できない	分類できない
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分2	臓器(腎臓)の障害のおそれ	—
	区分3	気道刺激性、麻酔作用	区分3
特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分1	長期にわたる、又は反復暴露による臓器(神経系)の障害	分類できない
誤えん有害性	区分2	気道に侵入すると有害の恐れ	情報無し

12. 環境影響情報

製品の環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)	: 区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分に該当しない
残留性・分解性	: 区分に該当しない
生体蓄積性	: 情報なし
土壌中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 情報なし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	: 産業廃棄物として許可を受けた専門業者に委託する。
汚染容器・包装	: 産業廃棄物として許可を受けた専門業者に委託する。
その他	: 廃棄物の処理及び清掃に関する法規制の定めるところに従う。

14. 輸送上の注意

容器に漏れがないことを確かめ、転倒、落下、損傷の無いように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行う。
火気厳禁。その他、消防法、船舶安全法等の法令の定めるところの従う。

国連番号	: UN1133
国連品名	: 接着剤
輸送における危険物有害性クラス	: クラス3(引火性液体類)
容器等級	: II
緊急時応急処置指針番号	: 128

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 第57条: 名称等を通知・表示すべき有害物(メチルエチルケトン、酢酸エチル)危険物、引火性の物
有機溶剤中毒予防規則	: 第2種有機溶剤
PRTR法	: 通知対象化学物質: 該当せず
消防法	: 危険物第4類第一石油類(非水溶性液体)(危険等級II)
船舶安全法	: 中引火性液体
その他	: 地域の法規制の定めるところに従う。

16. その他の情報

参考資料	原材料メーカーの安全データシート NITE GHS分類結果一覧 化学物質規制管理実務便覧(新日本法規) 厚生労働省「職場の安全サイト」
------	--

【注意】

このSDSは現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関
いかなる保証をなすものではありません。
また注意事項は通常の取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には、用途、用法に適した十分な安全対策を実施し
お取り扱い願います。